

短報

## 岡山県のシオマネキ

山本俊政<sup>1</sup>

*Uca arcuata* of Okayama Prefecture

Toshimasa YAMAMOTO<sup>1</sup>

**Abstract:** This report describes a discovery of the *Uca arcuata* habitat in Okayama Prefecture. Researches into the number and the size of this species at this area revealed that they made a small colony and all of them were immature.

### I. 緒言

シオマネキ *Uca arcuata* はスナガニ科の一種で甲幅甲幅38mmに達し、日本に生息するシオマネキ属10種の中では最大の大きさである。その生息域は汽水域の上限に近い内湾・河口域の波が直接当たらない砂泥土に巣孔を掘り、その周辺域を生活場所としている(奥谷 1994)。わが国における分布域は三重県以南から沖縄本島とされ、有明海、八代海および徳島県吉野川河口に大きな個体群が存在している(山口 1995, 井上他 1997)。

一方、中国地方での報告例は少なく白藤他(2002)の調査によれば、山口県今津川河口でまとまった個体群の発見がなされたが、岡山県永江川河口では1個体(2000年9月21日採集)のみの生息記録にとどまり、岡山県内における詳しい調査が望まれていた。

そこで筆者は2003年より岡山県南部の河口域、香川県小豆島、豊島などの瀬戸内海島嶼部における、シオマネキの生息調査を進めてきた。その結果、2005年6月に岡山県南部の埋め立て地に流れる河川(図1)で、小規模ながらまとまった個体群を発

見した。筆者は本種の希少性を考慮し、2006年に岡山県環境保全事業団に対し、非公式による報告を行った。その後、2009年に出版された岡山県版レッドデータブックでは絶滅危惧種I類に指定され、事前報告が反映されることとなった。しかし、指定の根拠となる詳細データが未発表であることから、発見当時の調査記録を残すため、本種の生息状況をまとめたので、ここに報告する。



図1. 岡山県南部のシオマネキの生息地(川幅約10m)。

1. 〒706-0005 岡山市北区理大町1-1 岡山理科大学工学部バイオ応用化学科アクアバイオ研究室 Department of Applied Chemistry and Biotechnology, Faculty of Engineering, Okayama University of Science, 1-1, Ridai-cho, Kita-ku, Okayama-shi, Okayama-ken 700-0005, Japan.

## II. 生息地ならびに調査方法

今回調査を実施した、岡山県南部に位置する河川の河口付近A地点-B地点(図4, 約500m)において、シオマネキの生息地を確認した。

調査は最干潮時前後1時間で実施し、種の同定方法は目視により行った。調査当日は雨交じりの天候により、地表に出現するシオマネキの個体数は巢孔数と比較して少なく、良好な条件と言えなかった。そのため巢孔からわずかに出現する個体を見落とす懸念から、川に沿って左岸2名および右岸2名の二手に分かれ、雌雄別による個体数と筒状に隆起した巢孔(図2)の総数をカウントした。

さらに、地表に出現した本種の年齢を推定するため、10匹をサンプリングし甲幅測定を行った。

## III. シオマネキ生息個体数の結果

調査地点で確認されたシオマネキの個体数を表1に示したが、調査範囲約500mにおいて河川左岸計14尾(雄10匹, 雌4匹, 巢孔数30個)河川右岸5匹(雄4匹, 雌1匹, 巢孔数10個)であった。さらに個体寸法を測定した結果、すべての個体は甲幅25mm以下の未成熟個体であった(図3)。

今回の調査結果からシオマネキ個体群は左岸に偏る傾向が見られた。さらに(図4)に示す調査地点Aより南方100mから200m付近に集中していた。また調査地点B付近ではシオマネキの個体数と巢孔数が著しく減少し、その傾向は河口域に近いほど、顕著なものとなった。

## IV. 考察

本種はかつて、三重県以南の干潟によく見られたが、温暖化現象による海面上昇や護岸工事などで、生息地となる干潟が消失し個体数が減少傾向にある。

環境省が発行するレッドデータリストには準絶滅危惧(NT)に分類されるため、現時点では、絶滅の危険度は小さいが生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種にランクづけされている。各都道府県別レッドデータリストを表2に示し



図2. 筒状に隆起した巢孔開口部をつくるシオマネキ。



図3. 本調査で採集されたオス個体(甲幅21mm)

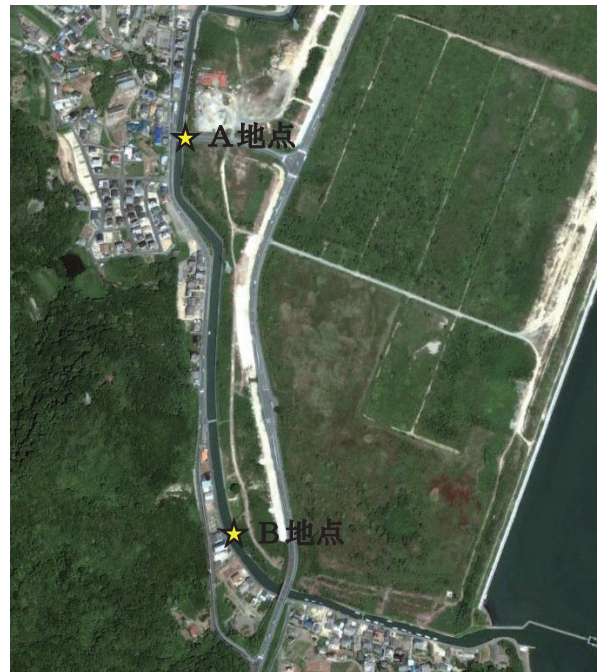


図4. 岡山県南部におけるシオマネキ生息地。A地点からB地点までの区間は、約500m(地図データ：2012 Google Earth)

表 1. 観察による生体数及び巣孔数調査結果. 調査日2005年8月18日.

調査地点	雄 (匹)	雌 (匹)	巣孔数 (個)
左岸	10	4	30
右岸	4	1	10
計	14	5	40

表 2. 地方自治体発行のレッドデータリストに記載されたシオマネキのステータス. NT: Near Threatened. VU: Vulnerable. EN: Endangered. CR: Critically Endangered.

沖縄県 2005	絶滅危惧種(旧カテゴリ)
佐賀県 2003	準絶滅危惧種(NT)
長崎県 2001	絶滅危惧種 II 類(VU)
宮崎県 2000	絶滅危惧種 II 類(VU)
徳島県 2001	絶滅危惧種 I 類(CR+EN)
三重県 2005	絶滅危惧種 I B 類(EN)
愛媛県 2003	絶滅危惧種 I 類(CR+EN)
岡山県 2003	未記載
和歌山県 2001	未記載

たが、徳島県・愛媛県では絶滅危惧種 I 類にランク付けされている。

一方、岡山県では詳細な調査が行われていないことから2005年当時、未記載となっていた。

この資料は、本種が調査時点で岡山県に生息することを明らかにしたものであり、白藤他(2002)からの報告以降5年振りの発見となった。また該当市においての生息記録としては初記録となるが、個体数の少なさと成熟個体が発見されない状況を勘案すれば、持続的な繁殖地とは考えにくく、本地域は絶滅

寸前の状態と推測された。

なお、2011年8月11日に同河川の追加調査を行ったが、雄3個体、雌1個体の生息数にとどまり、著しい個体数の減少が見られた。

## 引用文献

- 井上利枝子・田島正子・和田恵次(1997). 吉野川河口域におけるシオマネキとハクセンシオマネキの分布. *Bulletin of the Tokushima prefectural Museum*, 7: 69-79.
- 奥谷喬司(1994). 「海辺の生き物」. 269pp. 山と溪谷社.
- 白藤淳一・鈴木田亘平・福田 宏(2002). 山口・岡山両県からのシオマネキ(スナガニ科)の新産地. *日本ベントス学会誌* 57: 38-42.
- 山口隆男(1995). シオマネキ. 日本水産資源保護協会(編). 日本の希少な野生生物に関する基礎資料(II)甲殻類: 657-661. 日本水産資源保護協会. 東京.

**要約:** 岡山県で、シオマネキの新しい生息地を発見したので報告する。本生息地においてシオマネキの生息数と体長の調査を行った結果、群体は小規模であり全ての個体が未成熟であった。

(2012年7月25日受理)